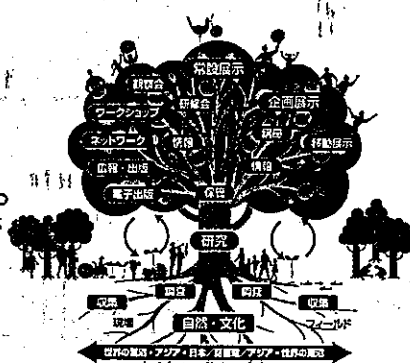


「湖と人間」の展示交流空間の再構築

- (1) 過去から学び、現在を見直し、未来を新たな視点で考える深みのある理解の促進
- (2) 地域の問題を自分のこととして理解し、琵琶湖の大切さに気づき、誇りに思う人びとの増加
- (3) 博物館の利用が促進されることで、新たな交流が広がり、フィールドから魅力的な発見と創造が生まれる
- (4) 博物館の利用者(リピーターや新規来館者)が増加し、暮らしの中に博物館が定着
- (5) 関西の命の水を預かる滋賀県からの発信力が強化、内外から琵琶湖地域の認知度が向上

地域の人びととともに「湖と人間」の新しい共存関係を築いていく



琵琶湖博物館を1本の樹木に例えるならば、研究活動は、“知”という養分をくみ上げる根にあたる。絶え間ない研究・調査活動により、太い幹を育て、葉を広げ、実を結ぶ。実は人びとにより地域に合わせて消化され、その種(たね)が広がり新芽が芽生え、大きな森となって、人びとが学び成長するネットワークをかたちづくる。これらの活動を通して琵琶湖地域が豊かな暮らしの営みの場となり、その成果を世界に発信していく。

新琵琶湖博物館創造ビジョン(素案概要)

1 基本的な考え方

■使命(平成8年度～)

琵琶湖博物館は、研究・調査に基礎をおきながら交流・サービス、情報の収集・発信、資料整備、展示を総合的に行うことによって、琵琶湖とその集水域および淀川流域の自然、歴史、暮らしの理解を深め、地域の人びととともに「湖と人間」の新しい共存関係を築いていくことをめざしている。

■基本理念(平成8年度～)

テーマをもった博物館  
「湖と人間」というテーマにそって、未知の世界を研究し、成長・発展する博物館

フィールドへの誘いとなる博物館  
魅力ある地域への入り口として、フィールドへの誘いの場となる博物館

交流の場としての博物館  
多くの人びとによる幅広い利活用と交流を大切にす博物館

■中長期目標(平成14年度～)

「地域だれでも・どこでも博物館」の実現

使命、基本理念、中長期目標は継承し、これまでの評価や課題、社会の要請を踏まえ、「湖と人間」の新しい共存のあり方を提示するため、展示交流空間を再構築する

琵琶湖・淀川流域から「湖と人間」を考える  
地域の人びとの誇りとなる博物館!

環境先進地域「関西」をリードする環境学習・情報発信の拠点  
地域に根ざしながら広く世界を視野に入れた研究・交流のネットワーク施設

## 2 琵琶湖博物館を取り巻く状況の変化

### (1) 経緯と現状

- ・「湖と人間」をテーマに平成8年に開館
- ・平成24年6月には来館者数800万人を達成
- ・観察会・体験教室・講座を年間200回以上開催
- ・資料を累計85万点収集し、45万点を整理登録。資料データベースを17分野、電子図鑑8分野をインターネットで公開
- ・地域に根ざした活動が深まり、広がりを見せる一方で、平成12年に52万人だった年間来館者数が、平成23年には37万人に減少
- ・子ども連れの家族や学校の利用はほとんど変わらないが、大人の利用が減少

### (2) 社会情勢の変化

- ・少子高齢化が進展し、高度成長の時代から生活の質を重視する生活中心の時代・成熟の時代へ
- ・人びとの環境に対する考え方や価値観が多様化し、生物多様性や持続可能社会などの新たな環境観が社会的に認知
- ・外来生物の移入、獣害、琵琶湖深層部の低酸化など新たな環境課題の顕在化
- ・地球温暖化対策としての低炭素社会の実現などの新たな社会的な動きが活発化
- ・府県域にとどまらない自然共生型社会づくりなど広域的な環境保全の要請

## 3 琵琶湖博物館の利用者ニーズおよび課題

### (1) マーケット調査概要 (平成24年10月19日～21日来館者アンケート調査、10月22～23日インターネット調査を実施)

- 琵琶湖博物館をよく利用しているのは県内の親子連れ層が中心で、来館したことのある人の満足度は高い。一方で、県外での認知度はかなり低い。また、子どものいない家庭や独身者層の認知度は低く、利用も多くない。
- 琵琶湖博物館をこれまで利用したことがない人でも「他の博物館には行く」「博物館が好き」と答えた人の割合は高いことから、展示・イベント等の魅力を向上し、県外や、大人・高齢者・子どもを含めた潜在的な利用者を掘り起こす必要がある。
- 旅先で博物館を訪れる観光客のニーズも踏まえ、屋外の見学・体験の充実、周辺観光地との連携強化も求められる。
- 主な利用層である親子連れ層に対しても、子どもや、親子連れが楽しめる多彩な展示・イベントを提供し、将来的な利用者増加につなげていく。

- 主なニーズ
- ・興味深いテーマ(自然・環境・歴史)の展示やイベント
  - ・大人が満足でき、親子で楽しめ、子どもも楽しめる展示やイベント
  - ・興味を引く展示、参加・体験型の展示、何度でも行きたくなる展示や更新性
  - ・おいしいレストランや楽しいミュージアムショップ、休憩スペースの充実
  - ・館内の導線、駐車場からの誘導、アクセスに対する改善
  - ・地域や環境に関する情報の発信

### (2) 琵琶湖博物館協議会からの意見

- ・学べる、楽しめる、遊べる、ためになる工夫、要素の導入
- ・大人が1人でも行ってみたい、再来してみたい、学んだり遊びたい気持ちになれる場
- ・退職者や高齢者の来館を促す、魅力の向上や手法の開発
- ・大人のみならず、子どもが主役になれる場、未来を担う子どもたちにメッセージを伝える必要性

### (3) 課題への対応

- ・蓄積された研究成果や地域の寄贈等により収集された実物資料の展示への活用
- ・環境先進県として最新課題に応える展示更新、何度でも行きたくなる新しい魅力のある展示更新を可能とし、常設展示の情報発信力を高める
- ・子ども、大人、高齢者まで幅広く対象とし、多様な来館動機を生むイベントやサービスの提供
- ・大人が繰り返し利用する生涯学習施設として、ICT(情報通信技術)活用、レファレンス等の機能の充実
- ・屋外での見学・体験の充実、周辺観光スポットとの連携の検討
- ・多様な人びとを受け入れる国際化、ユニバーサルデザイン化への対応

## 4 「湖と人間」の展示交流空間の再構築

### (1) コンセプト

高度化・複雑化した情報をわかりやすく、タイムリーに伝える博物館

大人も日常的に楽しめる、活用できる博物館

### (2) 常設展示の再構築

常設展示再構築の方向性：現在の展示の良さを生かしつつ、常設展示の発信力を強化する。

- ・実物資料(本物)を活かした感動をよぶ展示
- ・展示更新が随時行われ、来るたびに新鮮で新しい発見のある展示
- ・子どもたちにとっても分かりやすく楽しい、参加型の展示
- ・自分たちの日常とのかかわりが意識できる展示
- ・くらしと自然にかかわる価値観の変化や新たな環境課題に対して、最新の研究成果や考え方を提示する学びの展示
- ・地域の人びとが調査研究成果や収集資料を紹介する、市民がつくる展示

【展示室イメージ】

蓄積された実物資料を利活用した可変性の高い展示システム



【A展示室：琵琶湖と生物のおいたち】

【B展示室：身近な自然と人びとのくらしの歴史】

【C展示室：近年の環境と人の活動】

【水族展示】

### (3) 交流空間の再構築

交流空間再構築の方向性：参加と発見、対話と交流を促す交流空間を構築する。

- ・博物館の楽しさが伝わり、知的好奇心を育み、新たな活動の場となる交流空間
- ・博物館周辺の琵琶湖やヨシ帯とつながる自然を体感する屋外交流空間
- ・博物館の魅力を増すアミューズメント機能の強化

#### 【大人のディスカバリールーム(仮称)の新設】

標本や複製、図鑑、資料を備えた来館者が自由に触れ、調べ、観察できるコレクションルーム。博物館スタッフや地域の人びとの活動を見学し、交流もできる学習交流空間

#### 【ICT(情報通信技術)を活用した交流空間】

快適でスピーディな学びや情報発信・交流の推進

#### 【体験型交流空間】

昔の道具の使用体験、サイエンスカフェやミニ講座など、過去を理解し、新しいことを発見する学びの場の充実



参考：オーストラリア博物館

#### 【屋外交流空間】

過去の里山や農村のくらしなどが体験できる屋外交流空間

#### 【レストラン等アミューズメント機能の強化】

地元食材や特産品を楽しめるレストラン、楽しいミュージアムショップなど、魅力的で博物館の価値を高めるアミューズメント機能の充実

### (4) 交流機能の強化

#### 【環境学習センター】

- ・環境学習機能を拡充・強化し、環境を意識したくらしを実現するネットワークを構築
- ・国際湖沼環境委員会(ILEC)等と連携し、国際的な活動のネットワークを拡大

#### 【学校等との連携の強化】

- ・学校教育における博物館の有効活用を促進
- ・自主的な問題発見と学びを支援

#### 【支援・協力者制度】

- ・はしかけグループやフィールドレポーターなどの制度の充実、地域支援の新たな展開
- ・幅広い興味に応じて多くの人びとが力を発揮する新たな協力者制度を検討

#### 【国際交流機能】

- ・琵琶湖、地域の研究を世界に発信し、湖沼環境や博物館をテーマとした国際的ネットワークを強化
- ・海外の関係機関との連携を強化し、展示の国際化を推進

### (5) 利用者の立場に立った施設整備・運営の確保

【情報をより分かりやすく、より多くの人びとに発信】

【ユニバーサルデザインの推進】

【安全で効率的な施設・設備整備】

【基本的なサービス向上に向けた付帯設備・空間等の整備・拡充】

【互いに有益となる外部資金導入、企業連携等】

# 新琵琶湖博物館創造ビジョン策定スケジュール

年月	新琵琶湖博物館創造ビジョン	琵琶湖博物館協議会	県民からの意見聴取
H24.4	<p>■新琵琶湖博物館創造準備室設置</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状と評価</li> <li>・課題整理</li> <li>・リニューアルの方向性</li> <li>・基本コンセプト</li> <li>・目標像</li> </ul> </div>		<p>○各種アンケート調査</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期来館者アンケート</li> <li>・随時来館者意見</li> <li>・イベント、講座参加者アンケート</li> <li>・講義後の学生・研修生アンケート等</li> </ul> </div> <p>○アンケート回答者より意見聴取</p>
9 10	<p>■ビジョン骨子概要案作成</p>	<p>琵琶湖博物館協議会 (10/30)</p>	<p>○マーケティング調査</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者アンケート調査</li> <li>・インターネット調査</li> <li>・グループインタビュー</li> </ul> </div> <p>○ピアレビュー（外部有識者評価）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際化、UD</li> <li>・展示評価、リニューアルの方向性</li> <li>・利用者視点、広報戦略</li> </ul> </div>
12	<p>■ビジョン素案作成</p>	<p style="text-align: center;"><b>常任委員会報告</b> (12/21)</p>	<p>○県民ワークショップ ・大学との連携</p> <p>○これまでの各種調査、データ分析</p>
H25	<p>■ビジョン案作成</p>	<p>琵琶湖博物館協議会</p> <p style="text-align: center;"><b>常任委員会報告</b></p>	<p>○ピアレビュー（外部有識者評価）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示</li> <li>・水族 等（予定）</li> </ul> </div> <p>○県民ワークショップ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業との連携</li> <li>・流域との連携（予定）</li> </ul> </div>
3	<p>■新琵琶湖博物館創造ビジョン策定</p>		
<p>○琵琶湖博物館協議会 博物館法に基づく法定協議会。研究、展示、交流など博物館の諸活動に関する運営状況や将来像について、15名の外部委員から意見や提言をいただいています。</p>			